

令和2年度 後期 学校評価アンケート集計結果

令和3年3月10日
京都市立横大路小学校
校長 谷 知加子

令和2年11月30日～12月8日の期間で、児童・保護者・教職員を対象に学校評価アンケートを実施しました。

児童数221名に対して、児童の回答率は98%、保護者の回答率は90%でした。教職員については、職種によって回答できない項目もありましたが、全職員対象に実施しました。なお、兄弟姉妹のあるご家庭については、お子達それぞれについて回答をお願いしています。前期の回収率と比較して、保護者の回答回収率が3ポイント減少しています。

6月から学校が再開し、2学期は休校などなく、Sports Day（スポーツデー；令和2年度版運動会）やRunning Day（ランニングデー；持久走大会）などの体育的行事や修学旅行も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施することができました。しかし、寒さが増し始めたころから感染者数が激増。児童、生徒の感染者も毎日のように報道されるようになりました。夏の暑い時期に、まるで収束に向かうかのように感じた状況が一転しています。これから先もまだまだ油断できない状況が続くと考えられますが、お忙しい中ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。集計結果を以下の通りまとめ、今後の教育活動に活かすことができるように、考えられる問題点や改善点を示しました。

学校教育目標

「夢を抱き 生き生きと輝く 横大路の子」

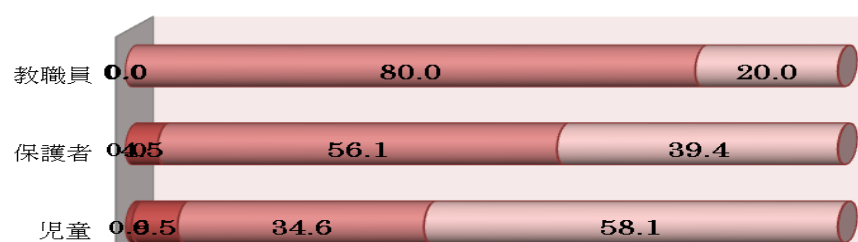
目指す子ども像

○自ら考え 自ら行動する子 ○命・心・体を大切にする子 ○学びを活かし、社会とつながる子

学校教育目標のもと、目指す子ども像を左記の通りとしています。目指す子ども像をめざし、研究教科を「体育科・特別活動・総合的な学習の時間・社会科」とし、「実生活との関わりに重点をおき、地域の安全、環境、自然、文化について主体的対話的に学び、考えることで、よりよく生きるための資質・能力を身に付けることができる。」という仮説を立てました。そして、つきたい力を「自ら課題を見出し、自他と対話しながら探求していく力」「互いのよさを認め合い、自他の命を大切にする力」「学んだことを実生活に活かし、社会参画する力」として日々の教育活動に取り組んでいます。

①学校に来るのが楽しい

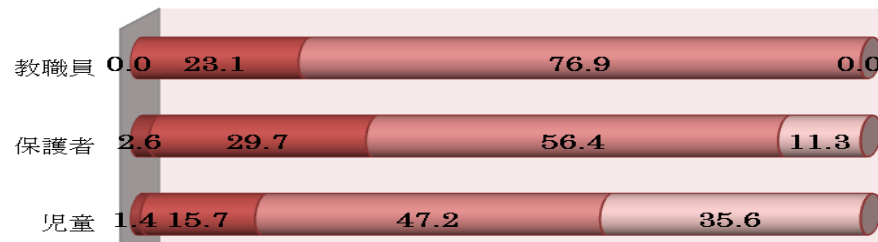
■いいえ ■あまり ■だいたい ■はい



児童・保護者ともに90%以上が概ね楽しいと回答。前期の結果と比較すると、児童、保護者ともに「はい」の割合が2～3ポイント上昇している。休校前の結果と比べても、学校生活を楽しめている児童の割合は7ポイント以上高い。一方で、「楽しくない時がある」「楽しくない」の割合がおよそ1ポイント上昇した。学校生活のスタイルが激変した中で、子どもたち自身が、「学校は安心できる自分の居場所」と思えるように、教職員の学習指導力、対人スキルの向上を目指したい。

②思い考えをもって学んでいますか

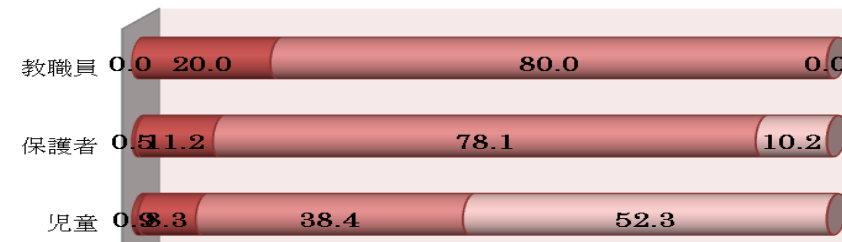
■いいえ ■あまり ■だいたい ■はい



自分の考えや思いをもって学習に臨んでいると答えている児童は、「はい」「だいたい」を合わせて、約83%。前年度、前回からもわずかずつだが、上昇傾向にある。一方で、保護者の「はい」の回答が前回から20ポイントの減少。さらに、「あまり思わない」が26ポイント増となっている。また、教職員も前回比12ポイント減。児童の感覚と保護者・教職員との受け止めの大きな開きは、児童が主体的に学ぶことができるように仕掛ける工夫をさらにすることで埋まっていくと考えられる。

③話し合いながら学んでいますか

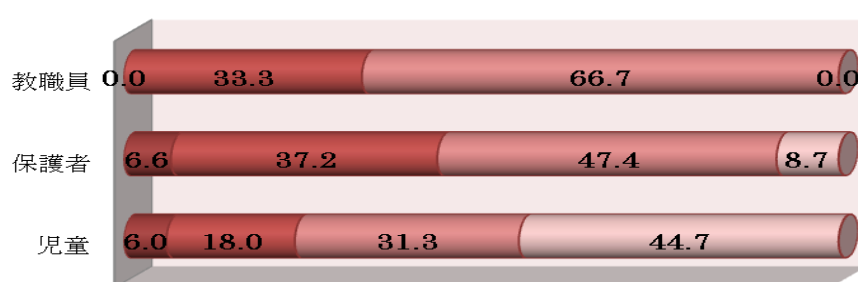
■いいえ ■あまり ■だいたい ■はい



複数人で話し合うという、昨年までなら当たり前だった活動が感染症対策のためにしにくくなっている。そんな中ではあるが、学習内容によっては、一定の間隔をとりマスクをして少人数での話し合いをする場面を設定している。話し合う時間が以前より大幅に減少していると考えられるが、このような結果であるということは、話し合いの時間が充実しているのではないかと考えられる。パソコンが一人で1台使える環境が整えば、PCを使った話し合いにより、複数での活発な対話が可能になる。

④進んで家庭学習していますか

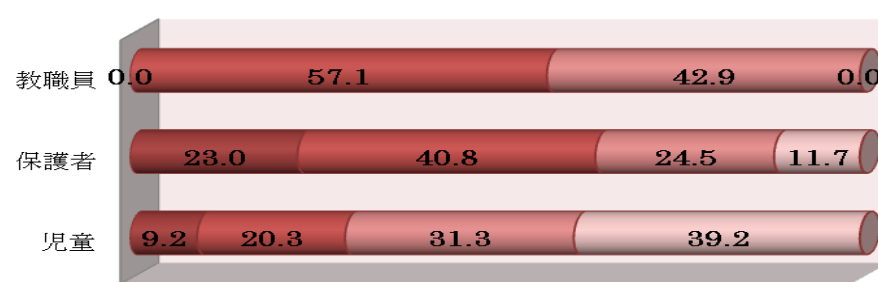
■いいえ ■あまり ■だいたい ■はい



「はい」の割合に児童と保護者の回答の大きな開きがある。前期の回答と比べてもその開きがさらに大きくなっている。児童は家庭学習に取り組んでいると感じているが、保護者は十分であるとは受け止めていないと考えられる。また、教職員については、「はい」が0%で、前期と変わらない結果であるが、「だいたいできている」の割合が増加しており、家庭学習の習慣化が進み始めていると考えられる。

⑤進んで読書していますか

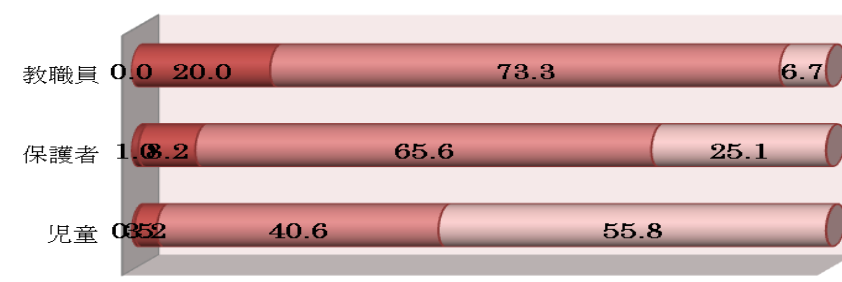
■いいえ ■あまり ■だいたい ■はい



約70%の児童が、概ね本に親しんでいると見て取れる結果である。児童の「はい」の回答は、前年度35%、前期37.8%、今回39.2%と増加傾向である。どの学年も概ね週に1時間は図書室を利用するようにしていることに加え、司書の先生が週に2回、書籍の整理や貸出の補助などを行い、児童が本に親しむ機会を増やしていることがこの傾向の要因の一つではないか。家庭でも読書に使う時間が取ればさらに割合を伸ばすことができそうである。

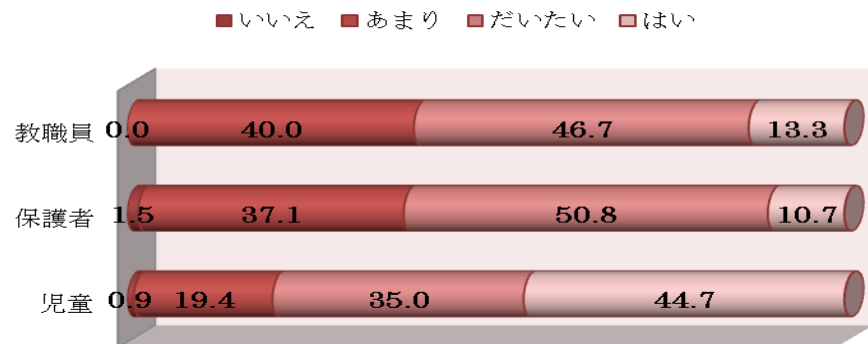
⑥自分・他者を大切にしていますか

■いいえ ■あまり ■だいたい ■はい



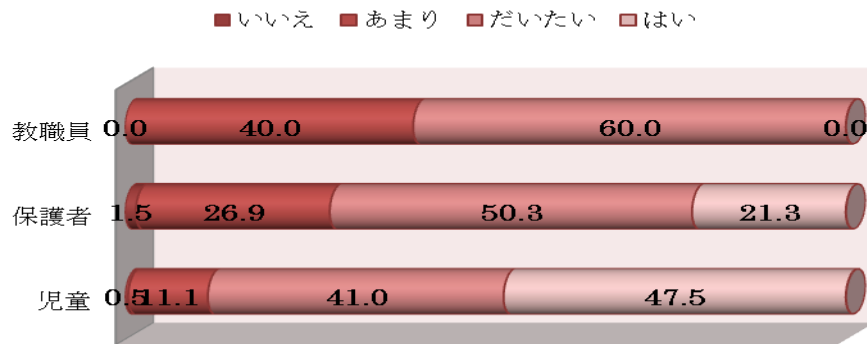
前年度から引続き、3者とも80～90%前後の高い割合で自分や他者を大切にしていると回答している。しかし、児童の回答「はい」を前年度、今年度前期と比較すると、前年50%、前期63.5%、今回55.8%となり、休校明けの時よりも10ポイント以上減少している。一方で、前期では「はい」が0%だった教職員の回答に変化が見られ、前年度よりも自他を大切にする姿が多く見られるようになったことの裏付けと考えられる。

⑦あいさつしていますか



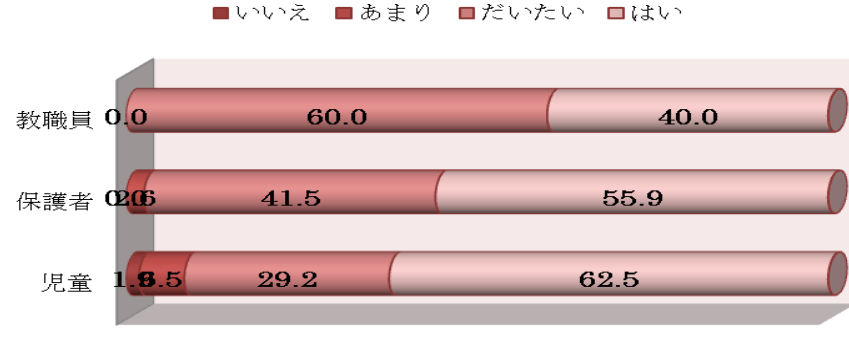
児童の回答は前回と比較して概ね同じ結果となった。一方で、保護者と教職員の回答に変化が見られる。双方とも「あいさつできている」という回答が増えている。特筆すべきは、教職員の「はい」の割合である。前は0%, さらに前年は7%と、10%を超えることがなかった項目だが、今回は13.3%, 「だいたい」も含めると60%となり、習慣化が進んでいることがわかる。

⑧きまり約束を守っていますか



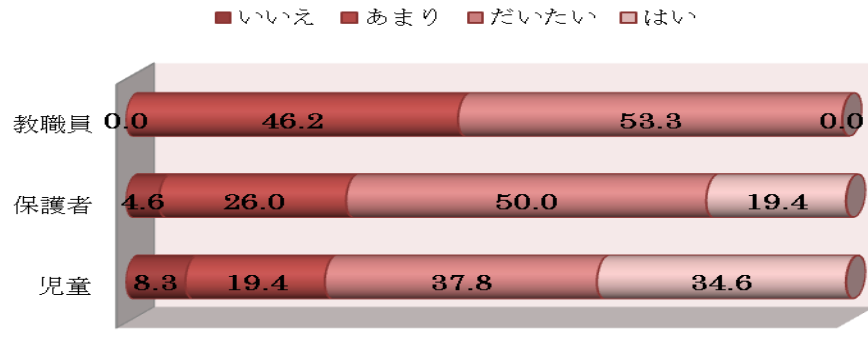
教職員の回答は、前回に引き続き「はい」が0%。「だいたい」についても9.2ポイント低下した。また、児童・保護者についても「はい」の割合が2.9～4.3ポイント低下している。学校生活での気の緩みだけでなく、新しい生活スタイルでのきまりや約束などが習慣化されていないことの表れではないかと考えられる。ここでも、With コロナの影響があるようだ。

⑨子どもをほめていますか



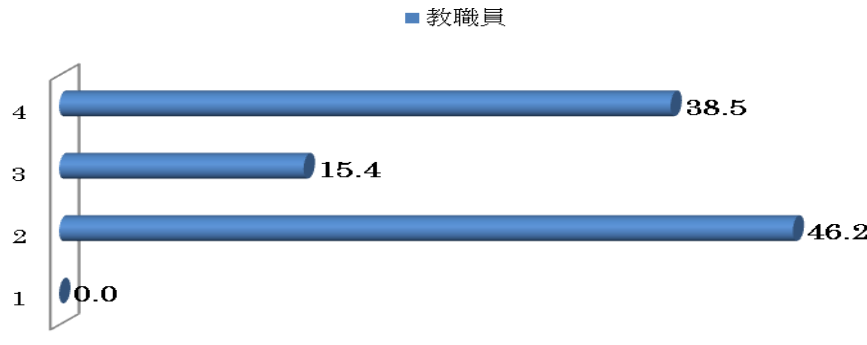
児童の「はい」の回答が6ポイント以上上昇。保護者の「あまり」「いいえ」の回答も合計で3ポイント減少。教職員が様々な場面で児童のよいところをほめることはもちろん、厳しく指導する場面においても、よさを引き出しながら課題を克服するように促すことができるようになってきていると思われる。児童の個性をよりよく伸ばできるように今後も取り組んでいく。

⑩生活習慣は身につけていますか



教職員の「はい」の回答は、前回に続き0%。厳しい見方がされる一方で、「だいたい」と「あまり」の結果が逆転し、「だいたい」が増加傾向にある。また、保護者の回答もよい傾向がみられる。特に低学年の児童の自立が促されると保護者の判断も変わってくる。一方で、高学年になると、SNSやゲームなどとの付き合い方が生活習慣と大きくかかわってくる。健全な生活習慣は身体的成長だけでなく人格形成にも影響があることを忘れてはならない。

I C Tの活用



教職員だけに行った質問。前回に比べて2（あまり使っていない）の割合が増えた。GIGAスクール構想により、PCが児童一人一人に配備されることになり、教職員が操作できることはもとより、効果的に活用する工夫ができる能力は当然求められる。様々な場面で、ICTを活用できるように研修等を通して、スキルアップに努めたい。4（毎日使っている）の割合は前回に比べて16ポイント上昇。2極化が進んでいる。

保護者コメント

○学校での生活、友人関係が気になります。
 ○コロナ禍で大変な中、スポーツデーをはじめとした行事を、工夫を凝らしながら開催していただいたことは本当にうれしく感謝の気持ちです。
 ○感染が広がっている中、人が集まる学校行事を実施してもよいのか不安があります。
 ○いつもありがとうございます。ヨコタリングなど楽しい遊びができるようにしていただきありがとうございます。
 ○一人一人を大切にいただきありがとうございます。
 ○学校の様子を聞いてもなかなか話してくれない、伝えきれないのでもっといろいろ知りたいです。感染症対策を子どもにさせるのは難しいと思う。いつも放課後に先生方が拭き掃除をしてくださり本当にありがとうございます。
 ○友達関係で悩んでいることがあるようです。
 ○まだまだ言われないと自分から進んですることができません。不安だらけです。
 ○嫌なことを言われたりされたりすることが続いているようです。指導をしてもらっているようですが改善されている様子が見られず心配しています。
 ○引っ込み思案なところがありますが、楽しく学校に通っています。ただ、もう少し字をきれいに書いてほしいと思っています。
 ○今まで素直にやってきましたが、だんだん自分の考えが出てきた様子で、遊びや回りくどい言い方をするようになり、今までの2, 3倍時間がかかることが多くなりました。見守りつつ叱りつつ落ち着くのを待とうと思っています。
 ○1学期より楽しかったと言うことが増えてきました。いつもありがとうございます。
 ○学校の決まり事や宿題など守れていないことがあり、いろいろと先生には申し訳ない気持ちです。根気よく接していただきありがとうございます。
 ※このような状況下で子どもどうしの関係や子ども自身の気持ちの不安定な状況が生まれないようにする工夫や、心配なサインが見えた時の的確な対応を、保護者の方との連携のもとこれからも行っていきます。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

～学校運営協議会のみなさんより～

- ・コロナ禍において、学校生活が大変な中、子どもたちはみんなしっかり学習に取り組んでいる。
- ・学校生活を楽しんでいる子どもが多い。共働きの家庭が多く、子どもとゆっくりかかわることができる家庭が少ないのではないだろうか。
- ・あいさつはよくしてくれるようになってきている。
- ・読書に親しむ子どもの割合が増えてきているのはとてもよいことだと思う。
- ・地域の一人として、中学ブロックの連続した学びが達成できるように協力したい。
- ・防災については、見学やゲストティーチャー、訓練などで協力していきたい。
- ・一人一台のパソコン配備に向けて、教職員の活用状況が低いのが気になります。

⇒このようなご意見を受けて

- ・感染症対策を徹底した新しい生活スタイルに対応した、横大路小学校の「学校のきまり」の策定を進める。
- ・学校生活・家庭生活において、子どもたちが夢や希望をもって前向きに生きていけるように家庭との連携をさらに進める。
- ・中学ブロックでの学びの連続性を視覚化するために、「9年間の歩み」（仮称）を作成し、保護者の皆さんへ広報する。
- ・防災への意識を高め、自分達の暮らす地域をよりよくするための地域資源との連携を強化する。
- ・これからの教育課題に効果的に取り組むためのツールの一つとして、I C Tを積極的に活用する。そのための職員研修を適時実施する。